

○『みどりのがけの

ふるいいえ』

なかの 真実／作

(世界文化ブックス)



高い崖の家に住む猫は、部屋の窓辺できらきらと輝く石を見つけました。不思議なことに、その石はどんどん大きくなっていきます。猫はその石を包丁やお皿、テーブルとして使い、ついにはベッドとして使いはじめます。ところが、猫が友達のにわとりと石のベッドの上で寝ていると、とつぜん大量の水が部屋の中に流れこんできて、2匹はおぼれそうになってしまいます。

(あだち)

○『花じんま』

たじま せいぞう／さいわい せいぞう

(福音館書店)



むかしむかし、あるところに「じんま」がすみよったと。ある日、じんまが川で釣った切り株を斧で割ったら、中から白い犬が飛び出してきたじゃきに。

「じんま」とはおじいさんという意味で、この本は、有名な昔話「はなさかじいさん」を高知県の方言で書いた絵本です。力強い絵が特徴的で、最後の花を咲かせるところは迫力満点です。(にしかわ)

♥『100 このタネ

がとんでった』

イザベル・ミニョス・

マルティンス／文

河野 ヤラ 政枝／絵

(岩波書店)



マツボックリから 100 このタネがとんでいきました。とびだしたタネのうち、10 こは道路に落ち、20 こは川にしずみ、25 こは鳥たちにつつかれます。残りのタネも、リスにもっていかれたり、虫の巣になったりして、芽を出して大きくなったのはたった 1 本だけ。ところが、その 1 本の木にも、ウサギがやってきて、やわらかい木の芽を食べようとします。(おくむら)

♥『はるにきみが

めざめたら』

ジョルジョ・ヴォルペ／文

パオロ・プロイエッティ／絵

(工学図書)



もうすぐはるです。きつねのロッソはともだちのクイックにあえるのをたのしみにしていました。クイックはヤマネで、ふゆのあいだはずっとねむっているのです。ところがロッソには、あたらしくアナグマのバスというともだちができていました。ロッソはクイックにバスをしょうかいしようとおもうのですが、なかなかいいだせずにいるのでした。(みつい)



いろいろな色の本が大集合！



たいしょうねんれい
対象年齢

○：5 さい以下

♥：小 学 校 低 学 年 从

☆：小 学 校 中 学 年 从

◆：小 学 校 高 学 年 从

☆『あの日のあなた』

中川 なをみ／作

(くもん出版)

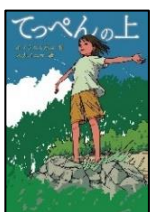


しずりは山間の村に住む女の子です。4年生になってすぐ、村に転校生のメイがやってきました。メイは自分の意見をはっきり言う、村の子たちにはない強さを感じるふしぎな子でした。メイと仲良くなったしずりは、メイの旅の話の聞いたり、学校の裏山に忍びこんだりして、毎日楽しく過ごします。ところがある日、村の子どもが行方不明になる事件がおこり、村人たちはよそ者のメイの家族が犯人ではないかと噂し始めます。(おくむら)

☆『てっぺんの上』

イノウエ ミホコ／作

(文研出版)



小学 5 年のエナは、今、自分は最悪の状況にいます。なぜなら、お母さんが突然家出し、お父さんの工場もつぶれて、おばあちゃんと暮らすことになってしまったからです。そんなエナは、スーパーで夕食の材料を買っている少年レオと出会う。彼のお母さんもないと知りませ。レオも自分と同じように「おれの人生どん底だ」と思っていることに気づいたエナは、彼のことが気になるはじめます。(つだ)

◆『青い鳥』

メーテルリンク／作

(岩波書店)



ある夜、まずしい二人の兄妹チルチルとミチルの家に、魔法使いのおばあさんが訪ねてきました。魔法使いは鍋の番で忙しいので、病気の娘のために幸せの青い鳥を見つけてくるよう二人に言います。二人は青い鳥を探しに不思議の国をめぐり、行く先々で青い鳥を見つめます。しかし捕まえた鳥は、どれも国を出る頃には黒くなったり、死んでしまったりするので。(いわい)

◆『さくら村は

大さわぎ』

朽木 祥／作

(小学館)



ハナが住んでいる「さくら村」には、子どもが生まれたら桜の苗木を 1 本植えるきまりがあります。村には、植えられたばかりの小さいものから古くて大きいものまでたくさんの桜の木が植わっています。そんなさくら村では、鳥が自転車のヘルメットに巣を作ってしまったたり、トウモロコシ畑に飼い主に捨てられたニワトリがいたり、毎日いろいろな事件が起こります。

(こじま)